

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 荒川 尚子

論 文 題 目 タブレット端末を利用したタイにおける
地域保健データベース開発に関する研究

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	榊原 久孝
	名古屋大学教授	玉腰 浩司
	名古屋大学教授	太田 勝正

論文審査の結果の要旨

タイにおいては、保健医療分野での効果的な情報の電子化がまだ十分に進んでおらず、現場の Community Health Nurses(CHNs)たちが収集している貴重な住民健康情報が有効に活用されていない状況にある。データベースシステムを含む ICTs は、ケア提供者の柔軟な実践と低コスト化を促進し、限られた資源を有効活用したヘルスケアの向上を実現することができる。また、データベースから得られるデータはニーズを特定することを助け、プログラムの評価にも役立つとともに、人的及び財政的な配分に関する政策立案にも不可欠である。

そこで本研究では、タイ農村部の CHNs が、日々の保健活動で得られる住民の健康に関する情報を有効活用できるようなデータベースシステムを現場の CHNs とともに構築し、情報収集と管理の効率化、情報の有効活用を図れる持続的・発展的に利用可能なデータベースを開発・評価することを目的とした。

研究は以下の 2 段階のプロセスで実施した。第 1 段階は現場の CHNs の意見を反映したボトムアップ型のシステム開発により、日常の保健活動に役立つ目的(疾患・対象)別の Nursing Minimum Data Set (テンプレート)を構築した。第 2 段階では、5 ヶ月間の長期運用試験を行い、データベースシステムのユーザビリティおよび収集したデータの有用性を検証した。




本研究の新知見と意義を要約すると、以下の通りである。

1. CHNs のニーズに基づき、糖尿病、高血圧、脳卒中、妊産婦、新生児および結核の 6 つのターゲットグループのサマリーテンプレートとデイリーテンプレートおよび、全対象者の基本事項を記録できる個人詳細テンプレートを含む 13 のテンプレートを含むデータベースシステムを開発した。テンプレートの項目は入力の手間を極力省けるように選択肢形式を採用したが、参加者の詳細情報を残したいという強い要望により、一部フリーテキスト欄も採用した汎用性のあるシステムとして構築できた。
2. 運用試験では本システムが許容可能なユーザビリティ・スコアを示し、実使用における情報入力時間の短縮を図ることができるとの評価を得た。また、入力されたデータから従来は見えなかった CHNs の活動内容や住民の健康問題を定量的に示せることを証明し、本システムの妥当性、有用性が示された。

本システムのような mHealth の導入により様々なレベルでの情報の共有と活用が進み、報告などに要する時間を減少させることができる。本データベースシステムは、農村部の情報管理の効率性を向上させると同時に、情報収集項目の標準化、フォーマット化によって地域保健および看護の質の向上に寄与することが期待される。

これらの研究成果は、International Nursing Review に掲載された(ARAKAWA N., et al. International Nursing Review 65, 515-523, IF=1.496)。以上の理由により、本研究は博士(看護学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	荒川 尚子
試験担当者	主査 名古屋大学教授 榎原 久孝 	名古屋大学教授 玉腰 浩司 	名古屋大学教授 太田 勝正 	
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. タイにおける住民の糖尿病、高血圧症など慢性疾患の現状について 2. タイにおける保健医療関連の個人情報保護の現状について 3. システムユーザビリティスケールSUSの特徴と評価結果の意味について 4. 看護ミニマムデータセットNMDSの概念とそれを今回のデータベース開発に利用したことの意義について 5. mHealthの概念と開発したデータベースの今後の活用、有用性について 6. データベースの項目として、敢えてフリーテキスト欄を設けたことの意味について 7. この研究のオリジナリティーについて <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				